土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　丹屋奥谷西川通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.2	**調査位置**	広島県福山市水呑町　地内					**北緯**	34° 26′ 28.0912″
発注機関	広島県東部建設事務所			**調査期間**	2019年　9月 19日 ～ 2019年　9月 20日			**東経**	133° 22′ 19.6957″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**		**ボーリング責任者**	
孔口標高	T.P. 102.40m	**角度**	180°　上下　90°　0°　0°	**方位**	北 0°　270° 西　90° 東　180° 南	**地盤勾配**	水平0°　鉛直 90°　31°	**使用機種**	**試錐機**　東邦地下工機　D1-B
総削孔長	4.00m								**エンジン**　ヤンマー　NFD-13　**ポンプ**　東邦地下工機　BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定日
	101.65	0.75		砂礫		褐			新生代第四紀	土石流堆積物に相当。φ20～50mmの硬質礫に富む。マトリクスは細砂からなる。0.5mまで植物根が多数侵入する。	9/19 9:40
1				風化流紋岩		帯褐暗青灰			中生代白亜紀	円盤状～6cm以下のごく短柱状コアが主体をなす。所々に10cm強の柱状コアを挟むことがある。岩片は中硬質以上の硬さを保つが，全体に弱い風化色を伴う。割れ目は低角度のものが多く，軟化や砕片化を伴ったものが散見される。【CL級岩盤に相当する】	9/20 1:00
2											
3	98.80	3.60									
4	98.40	4.00		流紋岩		暗青灰				新鮮色が強くなり，10cm以上の柱状コアが優勢となる。4.73～4.79m間の割れ目には流入粘土を挟む。これより下位で安定したCM級岩盤が続くとは確定できない。【この区間に限定すればCM級岩盤に相当する】	
5											

標準貫入試験

深度－N値図 (0 10 20 30 40 50)	N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
		1.00	貫入不能			50/0		
		1.00						
		2.00	貫入不能			50/0		
		2.00						
		3.00	貫入不能			50/0		
		3.00						
		4.00	貫入不能			50/0		
		4.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					9/19
					9/20